

# 全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年10月17日

予報期間：10月19日～11月18日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## 特に注意を要する事項

全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

## 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

東日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

北・東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

# 全般1か月予報

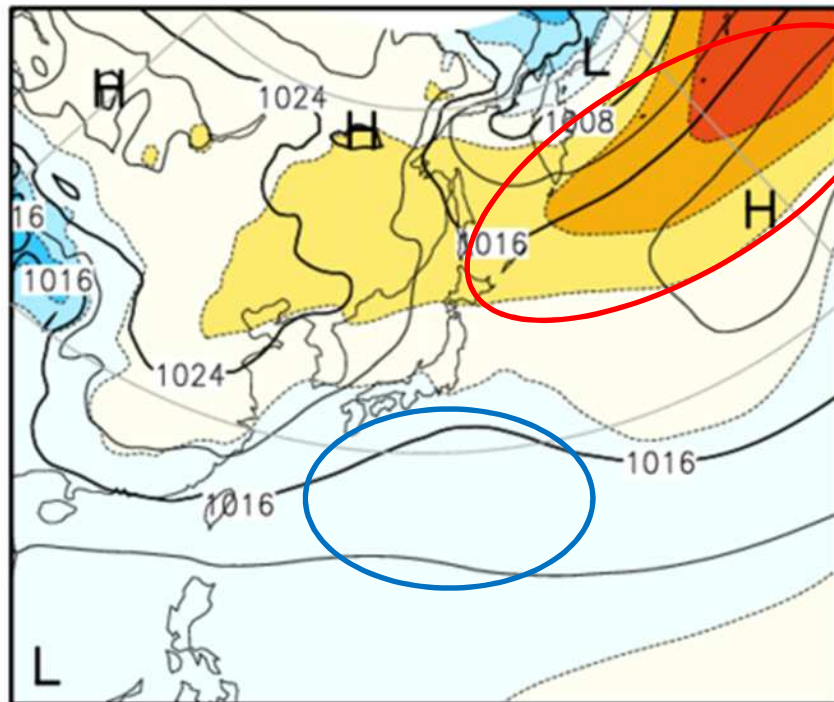
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	20:40:40	40:40:20	
	太平洋側		20:30:50	50:30:20	
東日本	日本海側	10:10:80	20:40:40	40:40:20	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
西日本	日本海側	10:10:80	30:30:40	40:40:20	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
沖縄・奄美		10:10:80	30:40:30	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:10:80	20:40:40
東日本	10:10:80	10:10:80	10:40:50
西日本	10:10:80	10:10:80	20:30:50
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:40:50

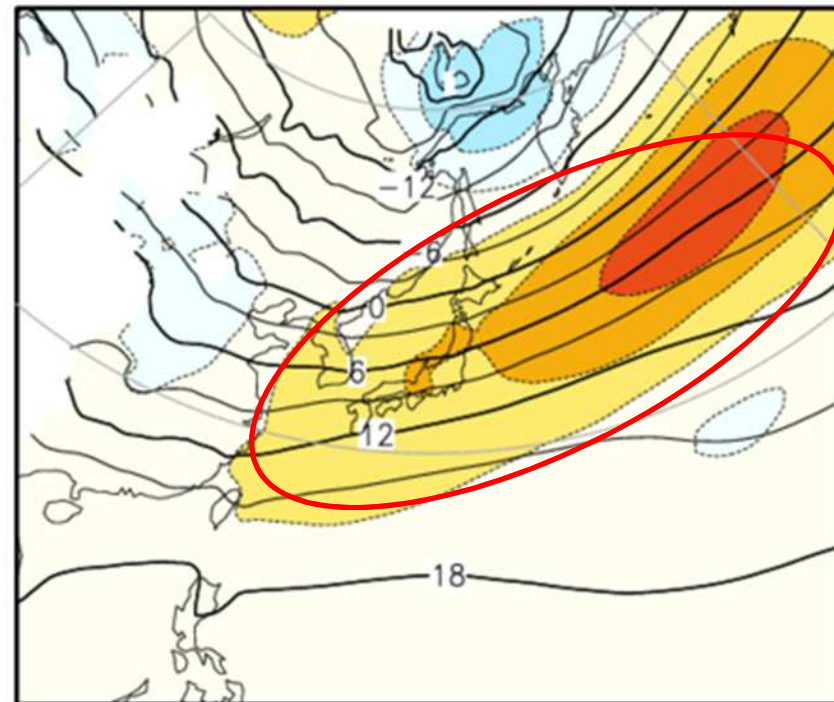
## 全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため全国的に高いでしょう。全国的に期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は北日本太平洋側では多く、北日本日本海側、東日本、西日本太平洋側では平年並か多いでしょう。向こう1か月の日照時間は北日本太平洋側で少なく、北日本日本海側と東・西日本で平年並か少ないでしょう。

## 地上気圧(1か月)

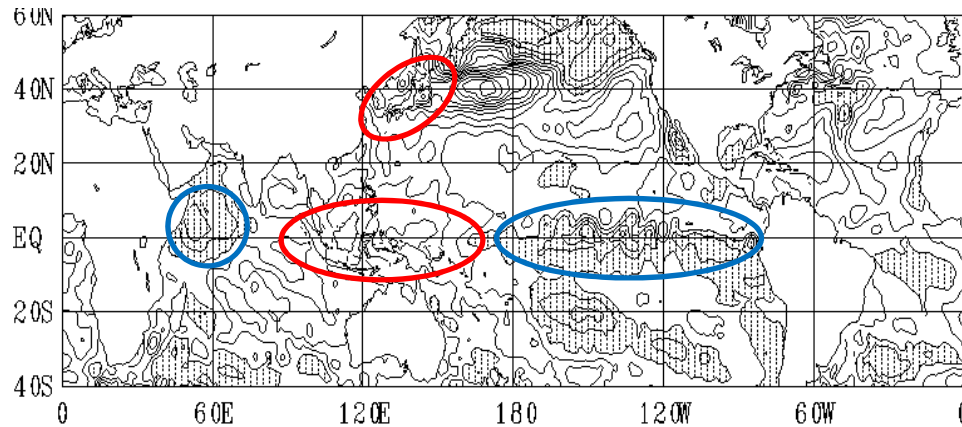


## 上空約1500mの気温(1か月)



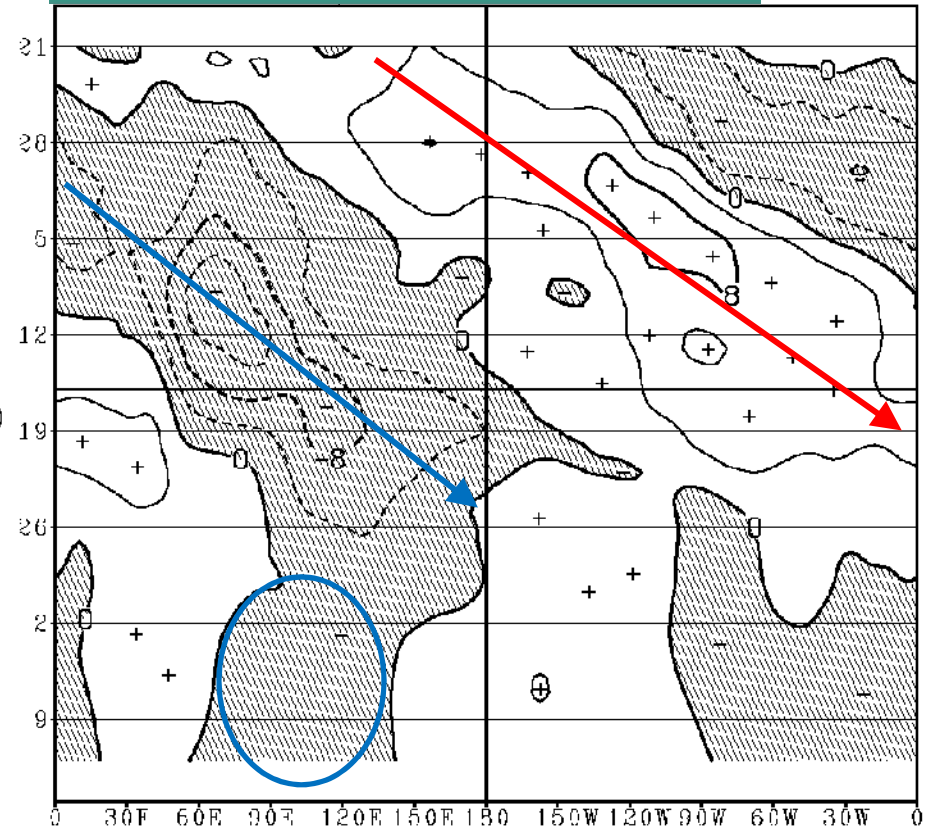
1か月平均の地上気圧(左図)は、日本の東で平年に比べ気圧が高い一方、日本の南は平年に比べ気圧が低く、北日本から西日本にかけては、低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすいでしょう。  
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

## SST偏差



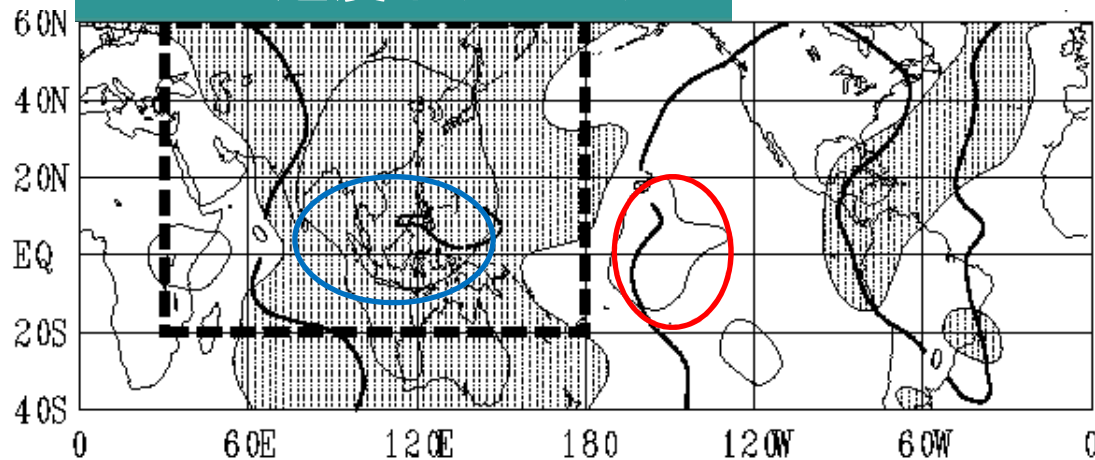
・熱帯域では、インド洋東部から太平洋西部にかけて正偏差。インド洋西部と太平洋赤道域中部から東部にかけて負偏差。日本周辺の海域で正偏差。

## 200hPa速度ポテンシャル偏差



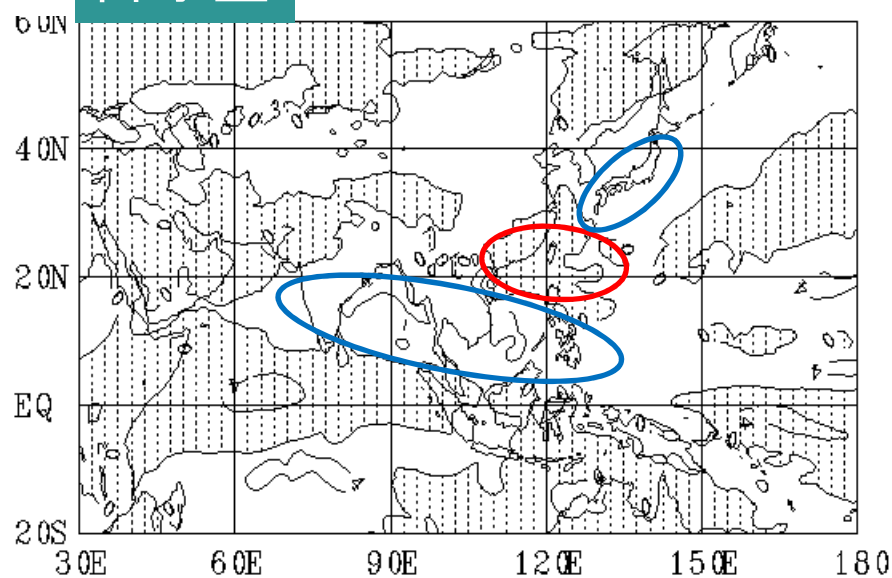
・実況ではインド洋付近で対流活発域が見られる。予測期間では東進位相が見られるが、インド洋東部から太平洋西部で対流活発が持続。

## 200hPa速度ポテンシャル



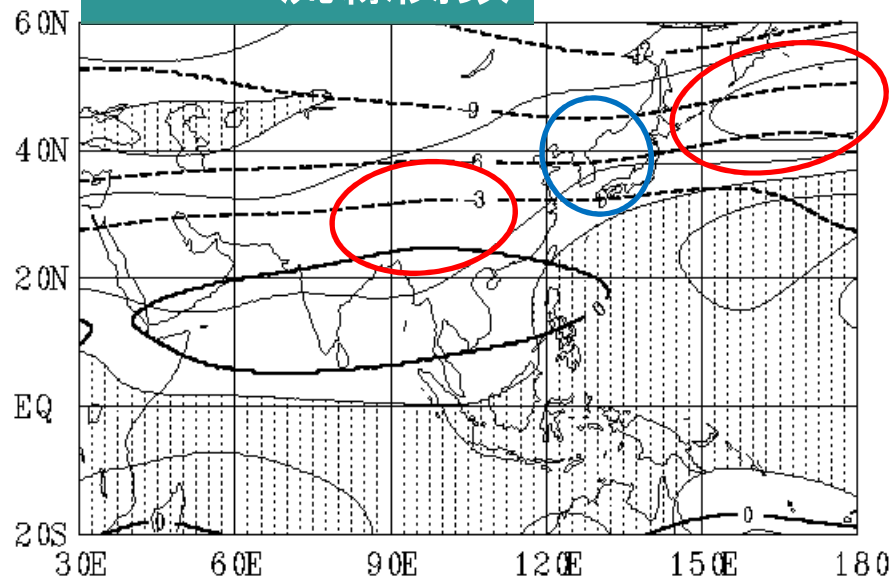
インド洋東部から太平洋西部にかけて上層発散偏差、日付変更線の東側で上層収束偏差。

## 降水量



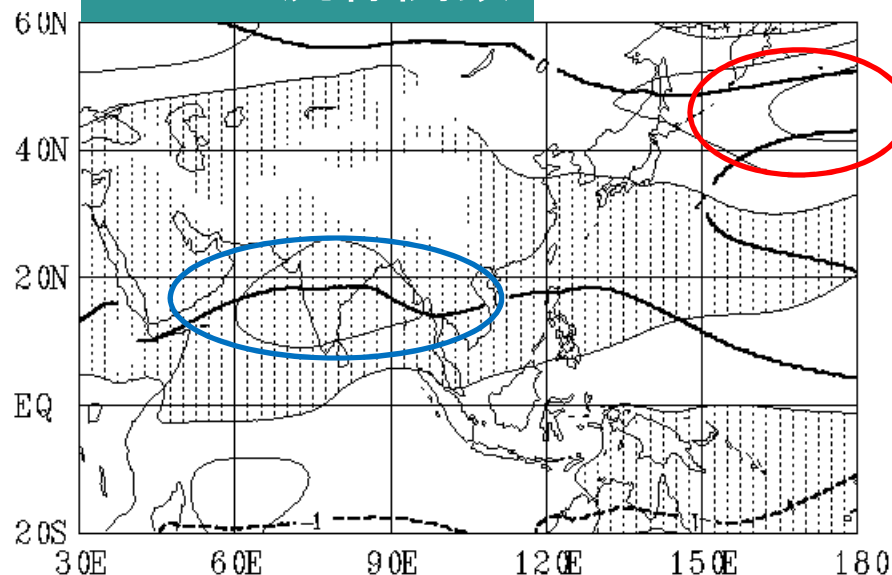
インド付近からフィリピン付近にかけて多雨偏差、フィリピンの北で少雨偏差。日本付近は多雨偏差。

## 200hPa流線関数



インド洋東部からフィリピン付近の対流活動が活発となることからチベット付近で高気圧性循環偏差。この高気圧性循環偏差から波列パターンが見られ、日本付近は相対的な低気圧性循環偏差、日本の東で高気圧性循環偏差が見られる。

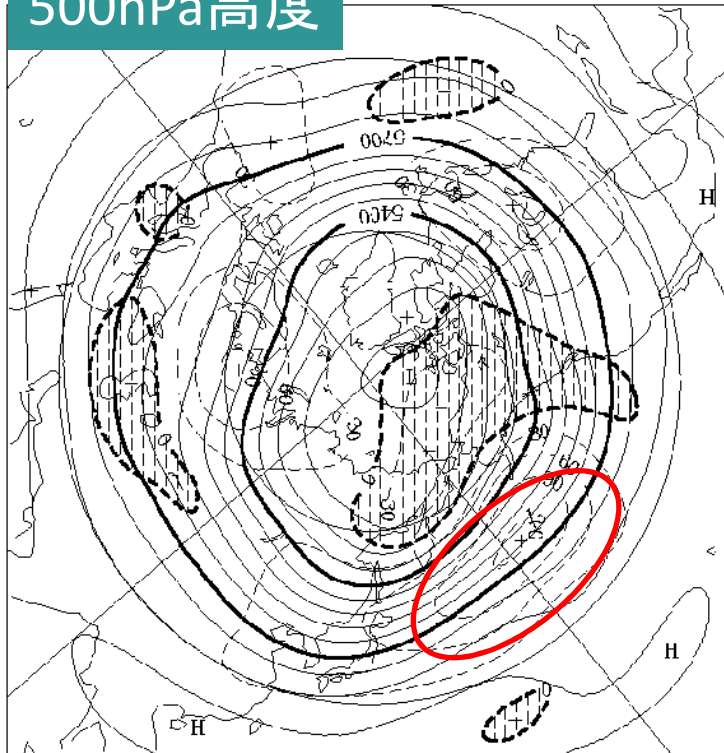
## 850hPa流線関数



インド洋東部付近の対流活発域に対応してインド付近で低気圧性循環偏差。日本の東では順圧的な高気圧性循環偏差が見られる。

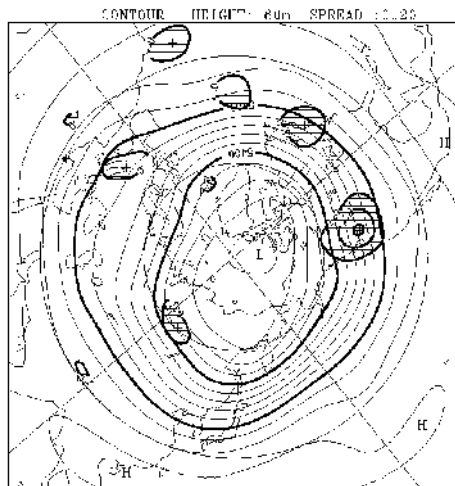


## 500hPa高度

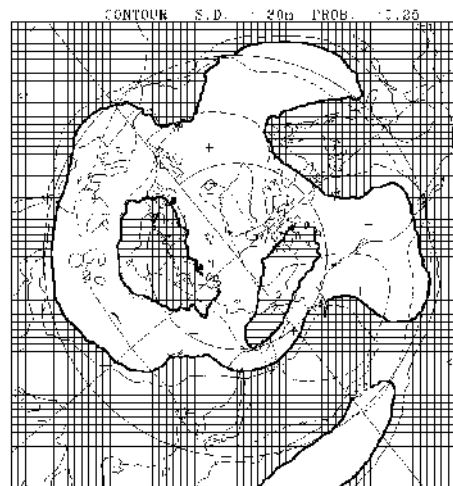


500hPa SPREAD AND LIGHT

PROF. OF H. ANOMALY AND S.D.



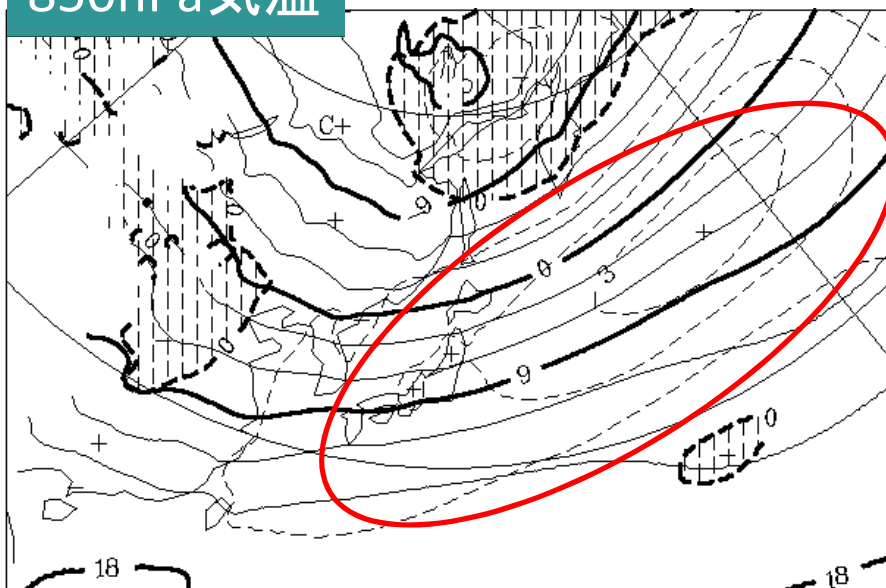
CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 10.25



CONTOUR S.D.: 20m PROB: 10.25

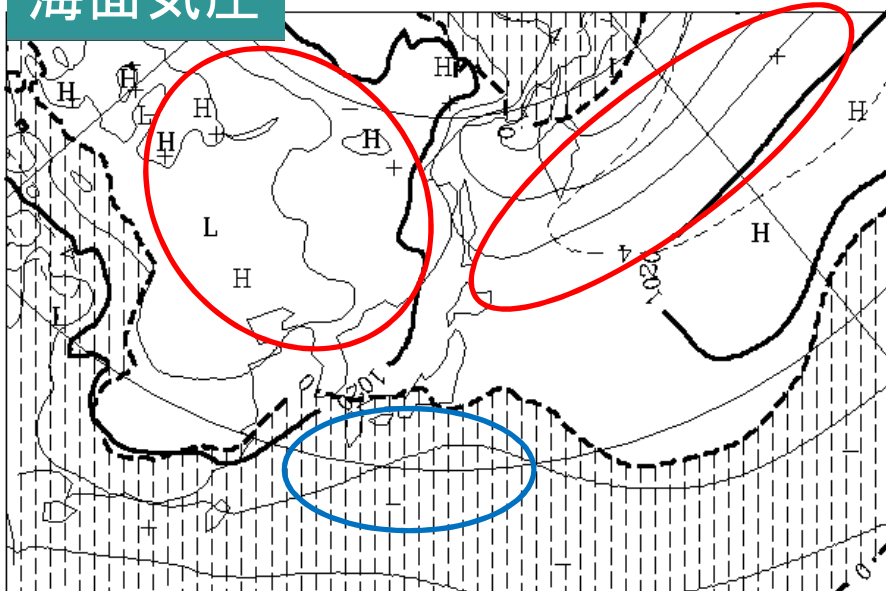
日本付近は広く正偏差に覆われるが、日本の東の正偏差が明瞭。日本付近は相対的に西谷で、湿った空気が入りやすい傾向。日本の東の正偏差が明瞭な領域は、期間を通してスプレッドが小さく、不確実性が小さいと考える。

## 850hPa気温



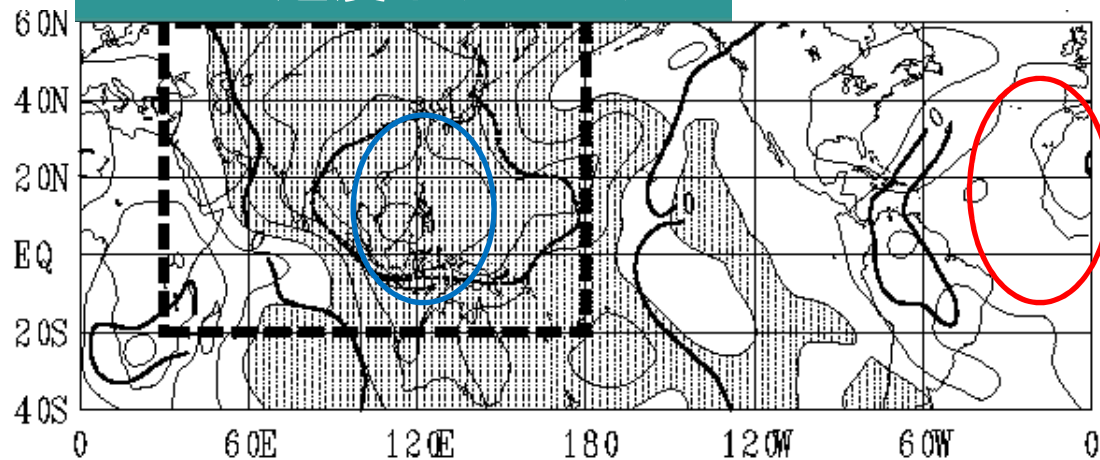
日本付近は高温偏差。

## 海面気圧



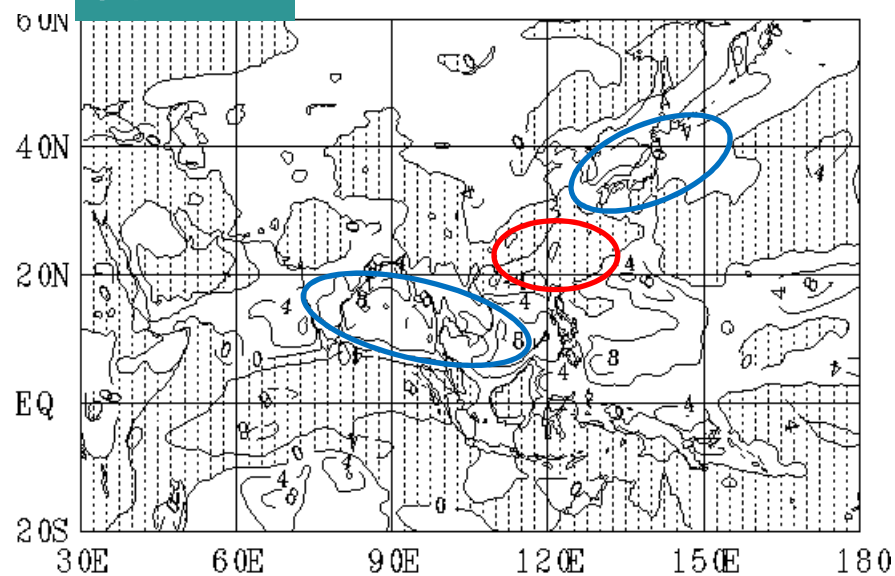
大陸で高気圧偏差。日本の東では、高気圧偏差が明瞭で季節進行に伴うアリューシャン低気圧の成長・南下が遅いことを示している。日本の南は低気圧偏差で、太平洋側を中心に南からの湿った空気の影響を受けやすい。

## 200hPa速度ポテンシャル



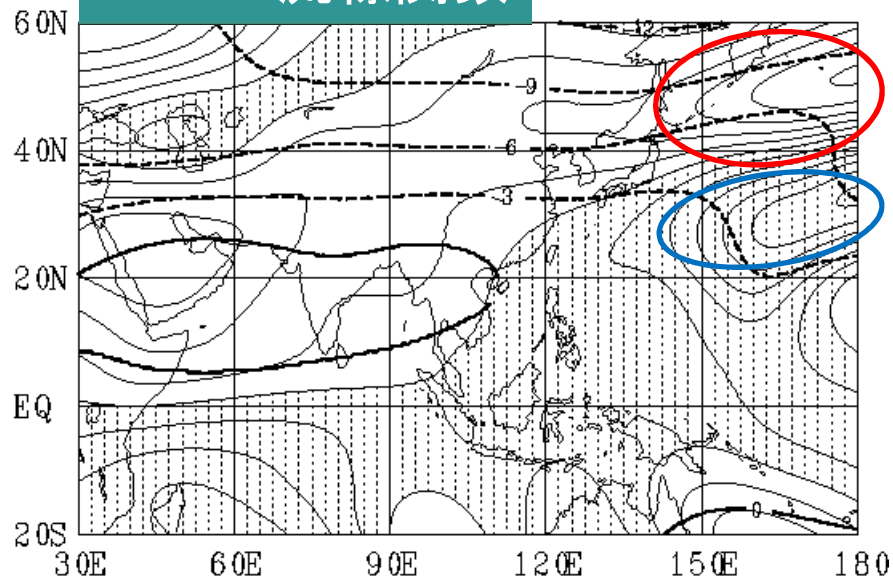
フィリピン付近で上層発散偏差、大西洋付近で上層収束偏差。

## 降水量



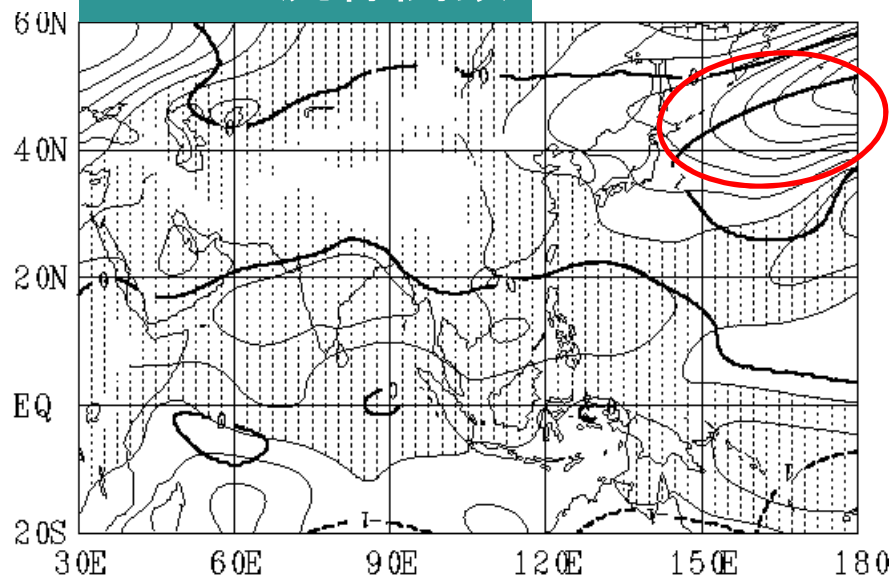
ベンガル湾からフィリピンの西にかけて多雨偏差、フィリピンの北で少雨偏差。北～西日本は多雨偏差。

## 200hPa流線関数



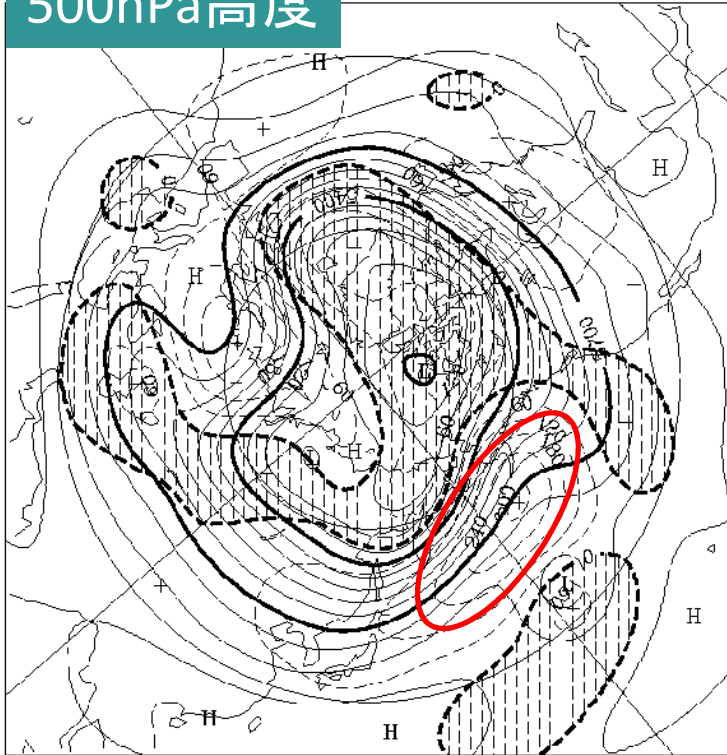
日本の東で高気圧性循環偏差、  
日本の南東で低気圧性循環偏  
差。

## 850hPa流線関数

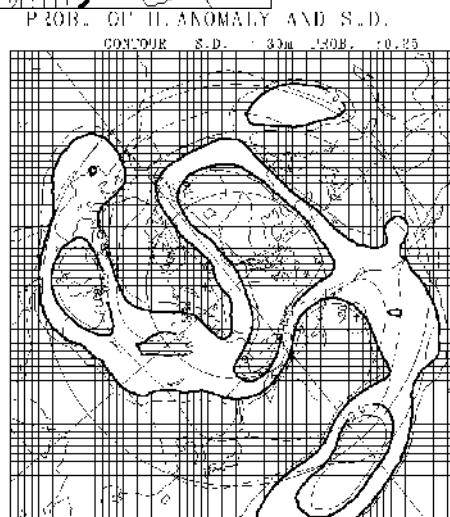
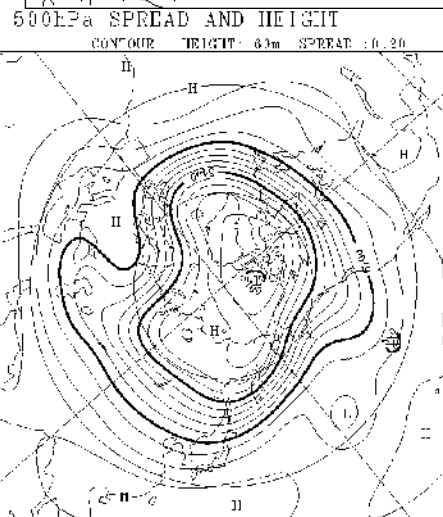


日本の東で高気圧性循環偏差。

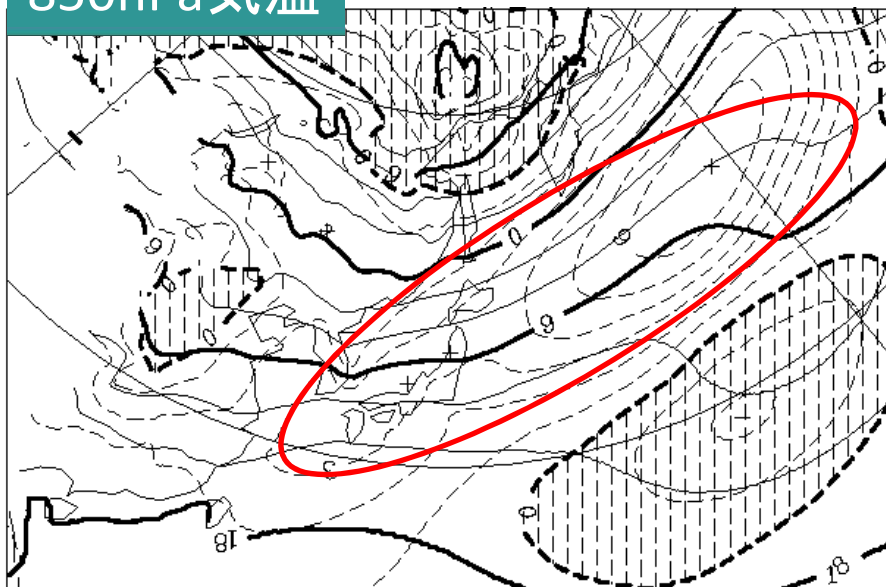
## 500hPa高度



日本付近は広く正偏差に覆われる。日本の東海上で正偏差が明瞭で日本付近は西谷の傾向。

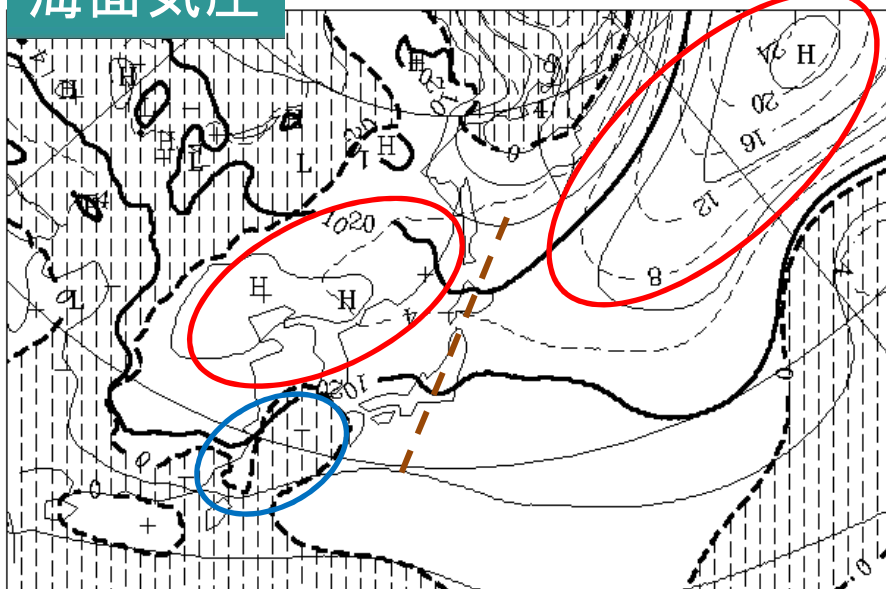


## 850hPa気温



日本付近は広く高温偏差。

## 海面気圧



大陸から日本の北、日本のはるか東にかけて高気圧偏差の一方、北日本付近から日本の南にかけては気圧の谷となっている。東シナ海付近では低気圧偏差も見られ、北日本から西日本は低気圧や前線の影響を受ける時期がある。

## 想定される天候

北日本日本海側では、低気圧や前線の影響を受ける時期があるため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

北日本太平洋側、東日本日本海側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受ける時期があるため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

### <気温>

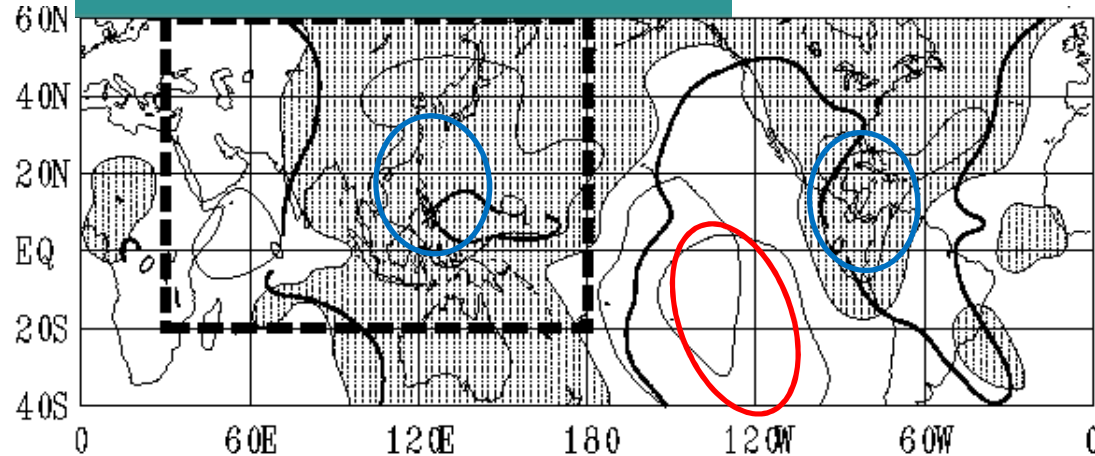
・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温で、かなり高くなる。

### <天候>

・低気圧や前線の影響を受ける時期があるため、北日本では、多雨寡照、東日本日本海側では、多雨傾向・寡照傾向、西日本では、やや多雨・寡照傾向、東日本太平洋側では、やや多雨・やや寡照。

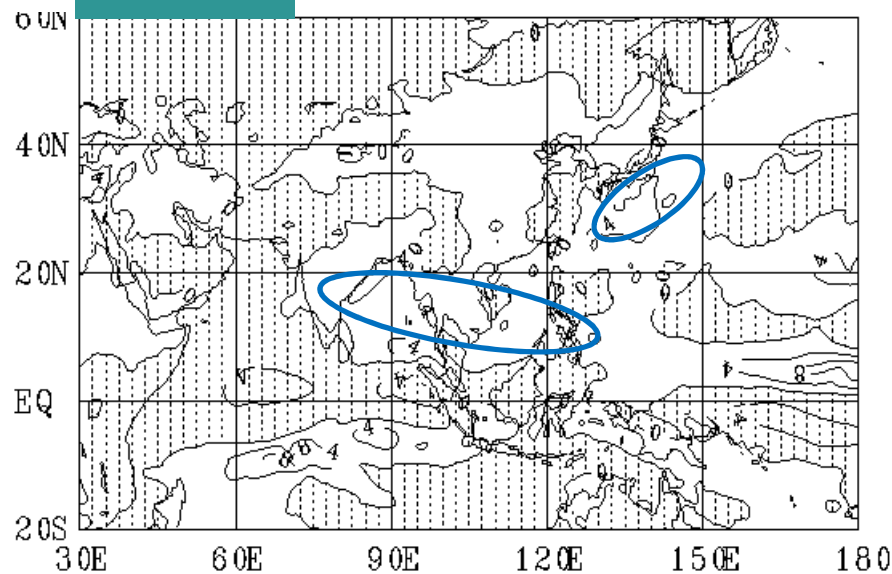
・沖縄・奄美では、高気圧に覆われる時期があるため、やや少雨・やや多照。

## 200hPa速度ポテンシャル



フィリピン付近、中米付近で  
上層発散偏差、太平洋中部  
で上層収束偏差。

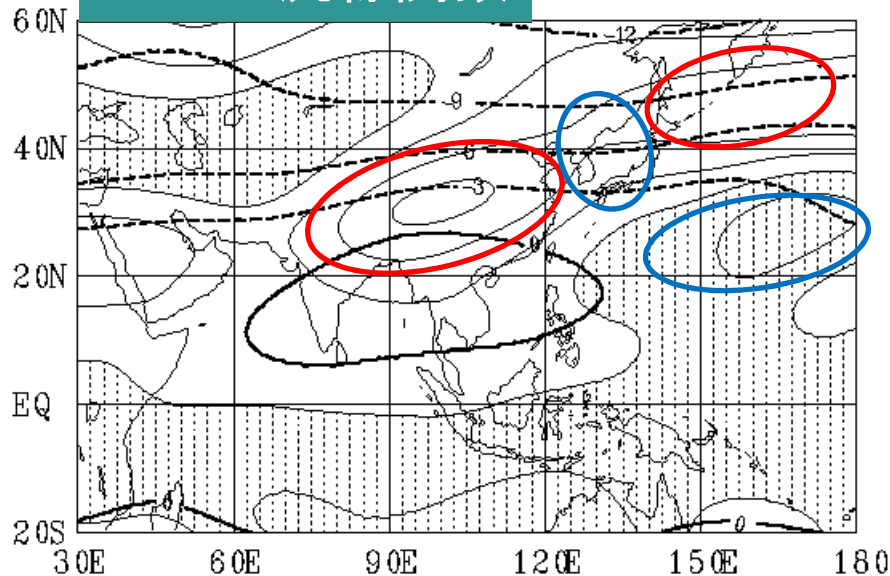
## 降水量



ベンガル湾からフィリピン付近  
にかけて多雨偏差。日本付近  
では南の海上を中心に多雨偏  
差が見られる。

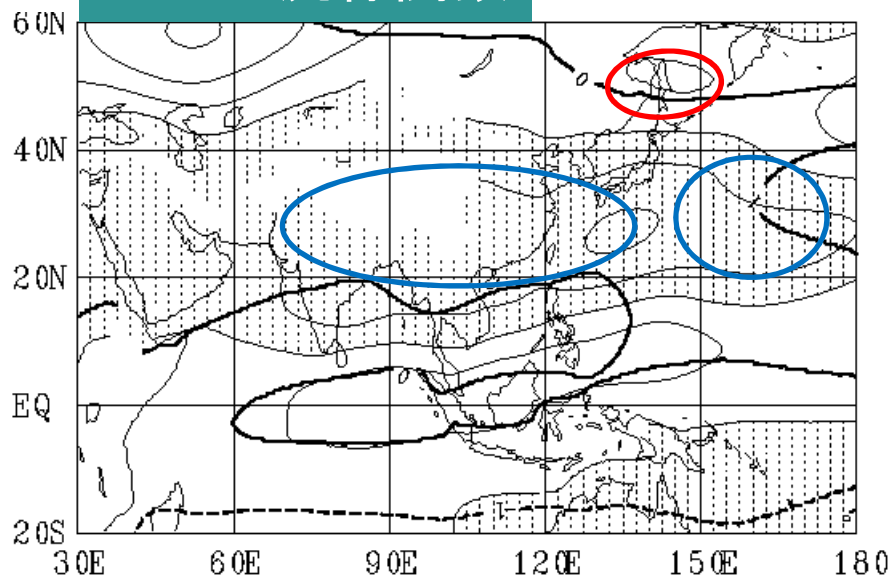


## 200hPa流線関数



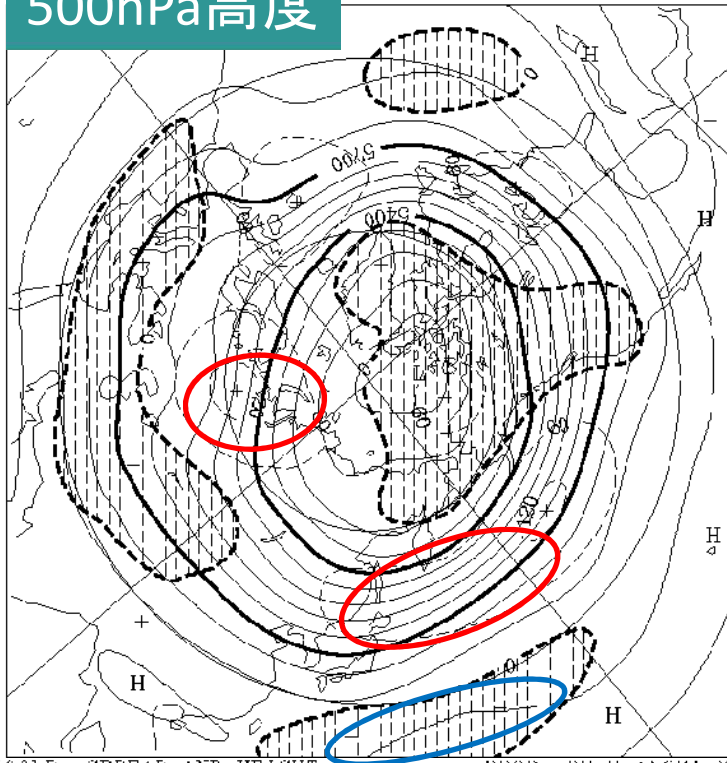
フィリピン付近の対流活発域に伴いチベット付近で高気圧性循環偏差。その高気圧性循環偏差から波列パターンが見られ、北海道付近から日本の東で高気圧性循環偏差、朝鮮半島付近は相対的な低気圧性循環偏差。日本の南東では、低気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



フィリピン付近の対流活発域に伴いユーラシア大陸南部で低気圧性循環偏差。日本の北で高気圧性循環偏差。日本の南東では、低気圧性循環偏差。

## 500hPa高度



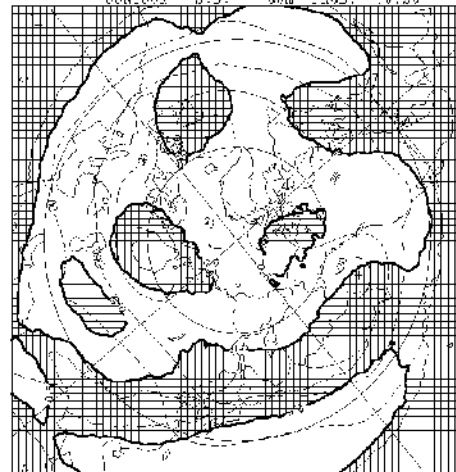
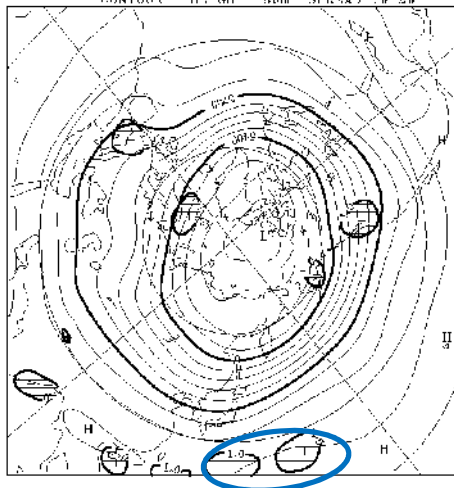
北海道付近から日本の東にかけて正偏差。これにはロシア西部付近からの波列の影響もあると考えられる。日本の南にはスプレッドの大きいながらも負偏差の領域が見られる。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

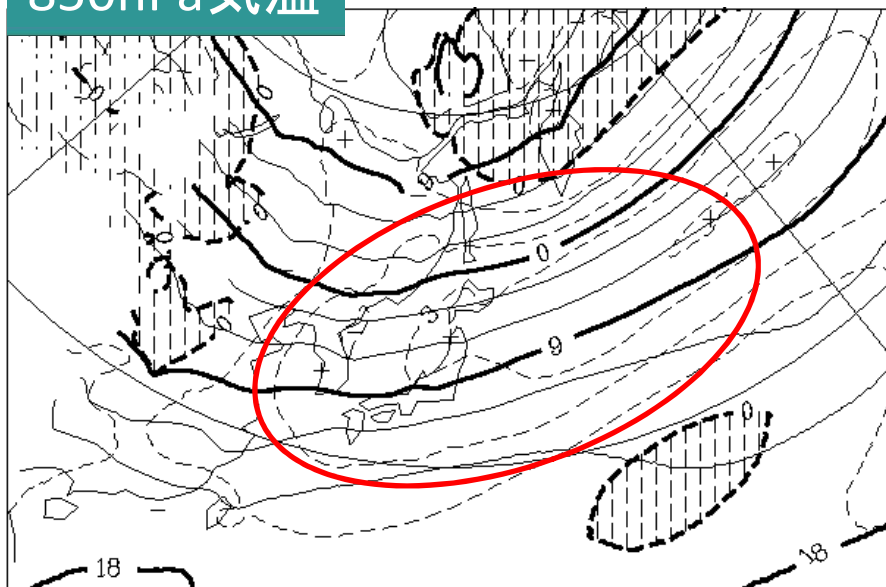
PROB. OF FLAKOMAX AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 300 2203 0.25

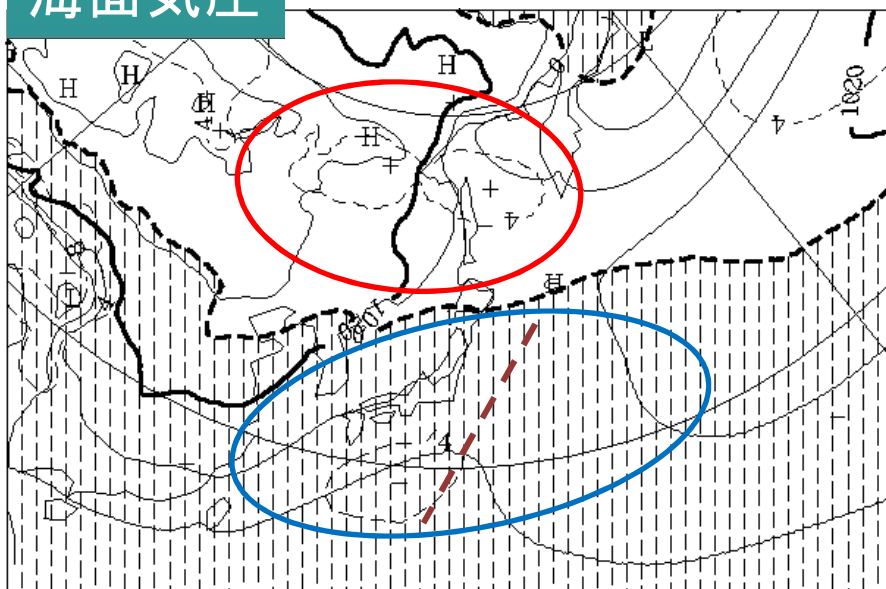


## 850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われる。

## 海面気圧



日本の北で高気圧偏差。日本付近は北海道を除き低気圧偏差に覆われる。日本の南東には気圧の谷が見られ、太平洋側を中心に気圧の谷や湿った空気の影響を受ける時期がある。

## 想定される天候

北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
北・東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、気圧の谷や湿った空気の影響を受ける時期があるため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。  
東日本日本海側、沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。  
西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

### <気温>

・暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温で、かなり高くなる。

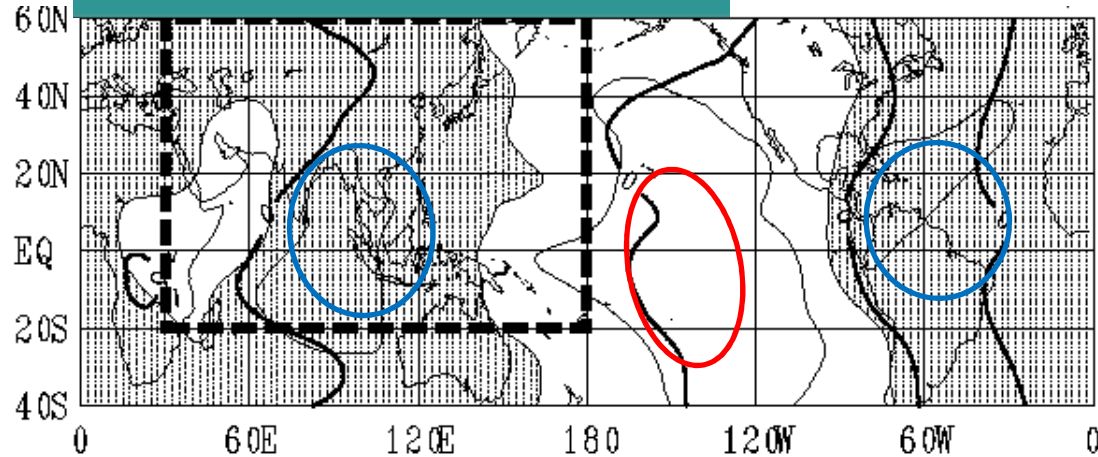
### <天候>

・北日本日本海側では、北東風の影響で降水量が少ないため、やや少雨・並照。

・気圧の谷や湿った空気の影響を受ける時期があるため、北日本太平洋側では、やや多雨・寡照傾向、東・西日本日本海側では、並雨・やや寡照、東・西日本太平洋側では、多雨傾向・寡照傾向。

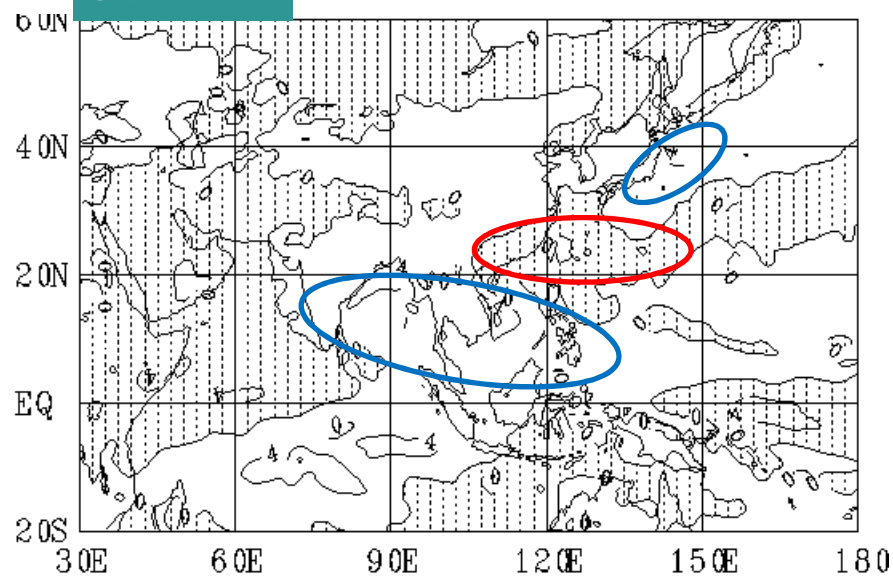
・沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受ける時期があるため、やや多雨・やや寡照。

## 200hPa速度ポテンシャル



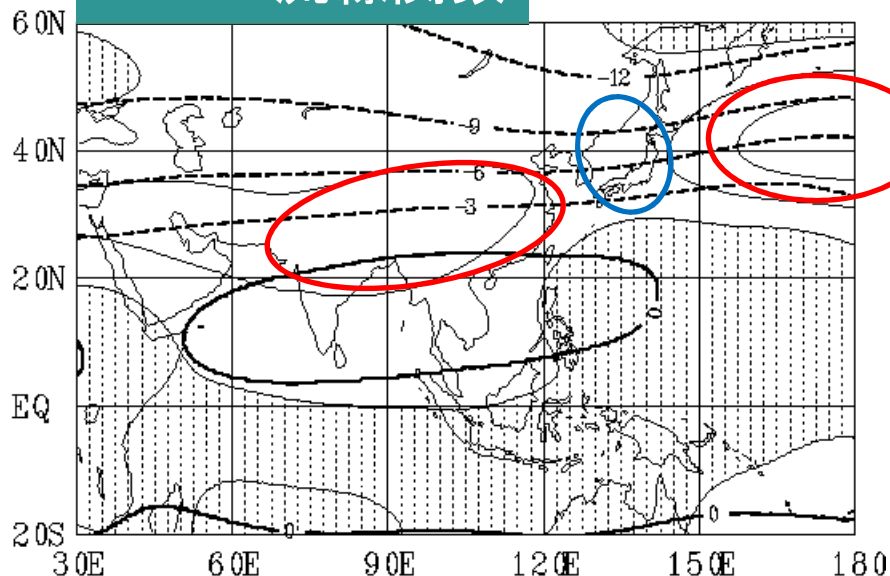
ベンガル湾付近からフィリピン付近にかけてと、大西洋西部で上層発散偏差、太平洋中部で上層収束偏差。

## 降水量



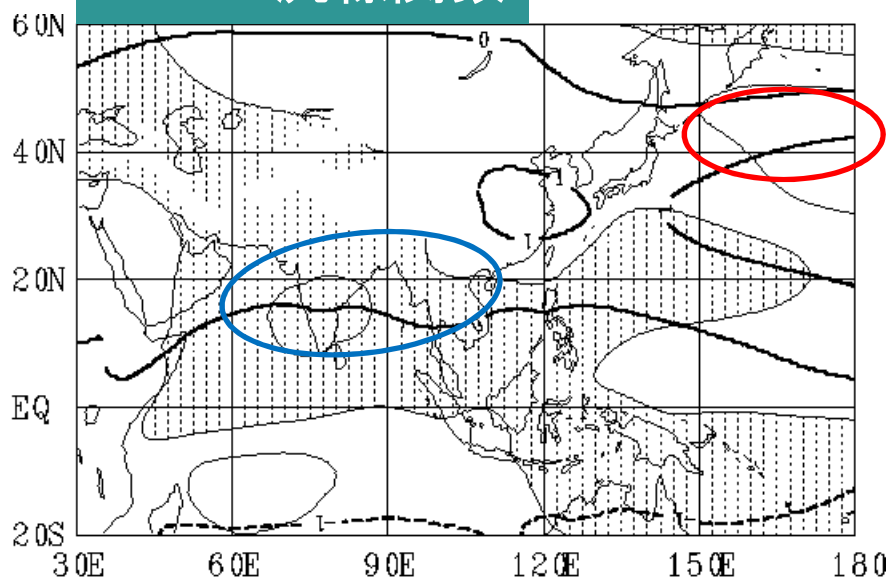
ベンガル湾付近からフィリピン付近にかけて多雨偏差。華南付近から日本の南にかけて少雨偏差。日本付近で多雨偏差。

## 200hPa流線関数



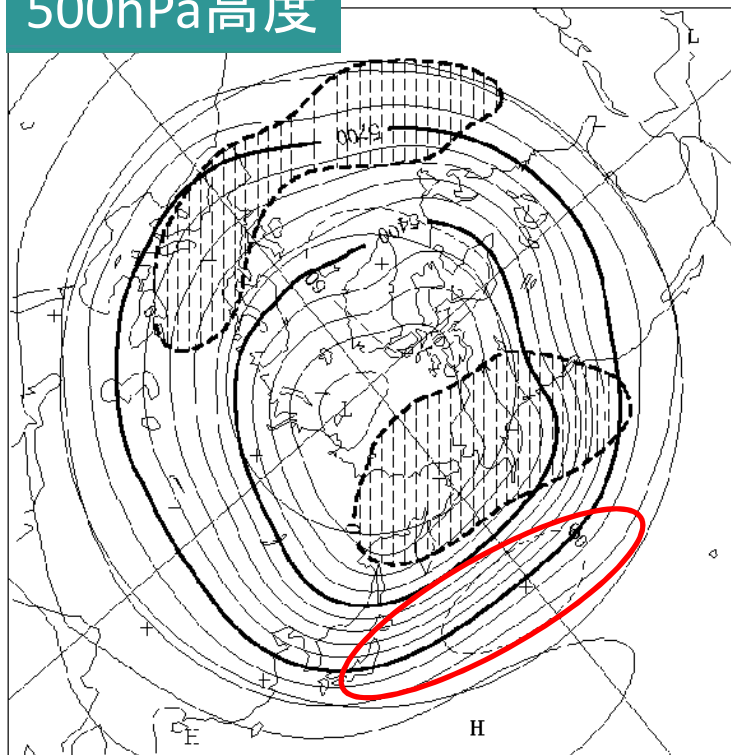
ベンガル湾からフィリピン付近にかけての対流活発域に伴いチベット付近で高気圧性循環偏差。その高気圧性循環偏差から波列パターンが見られ、日本の東海上では正偏差、日本付近は相対的な低気圧性循環偏差。

## 850hPa流線関数



ベンガル湾からフィリピン付近にかけての対流活発域に伴いインド付近からインドシナ半島付近で低気圧性循環偏差。日本の東海上では順圧的な高気圧性循環偏差。

## 500hPa高度



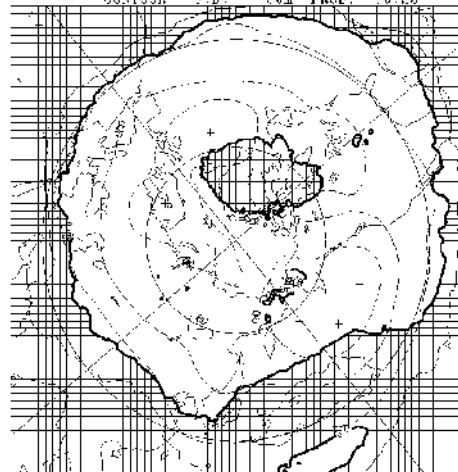
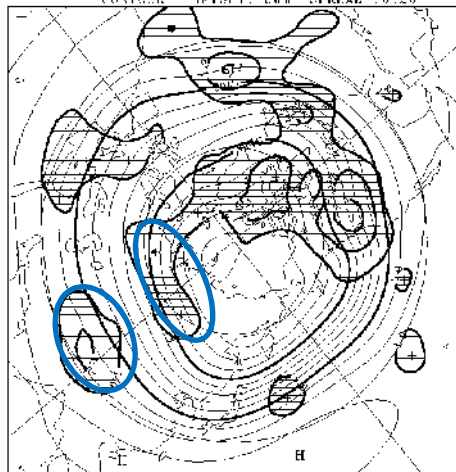
日本付近は広く正偏差に覆われる。ユーラシア大陸上はスプレッドが大きい領域が見られるため、ある程度の不確実性を考慮する。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

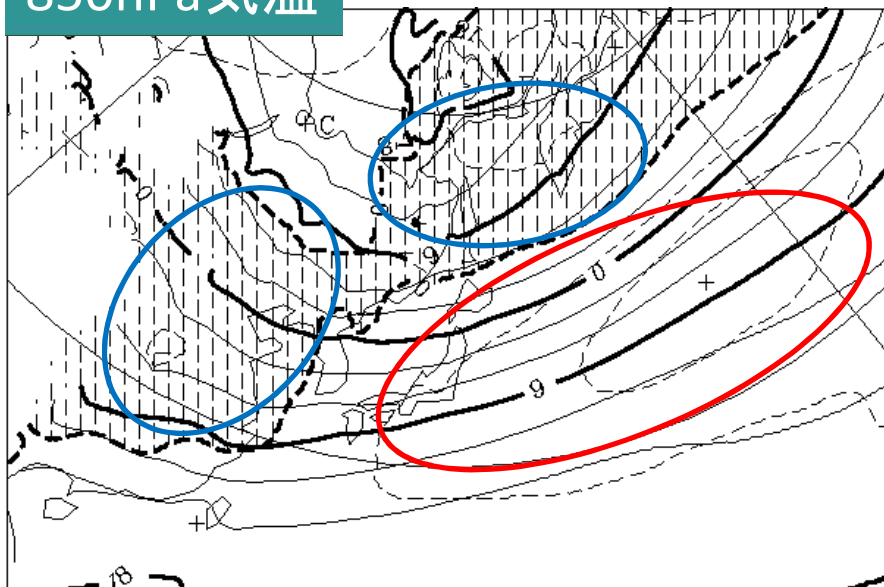
PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

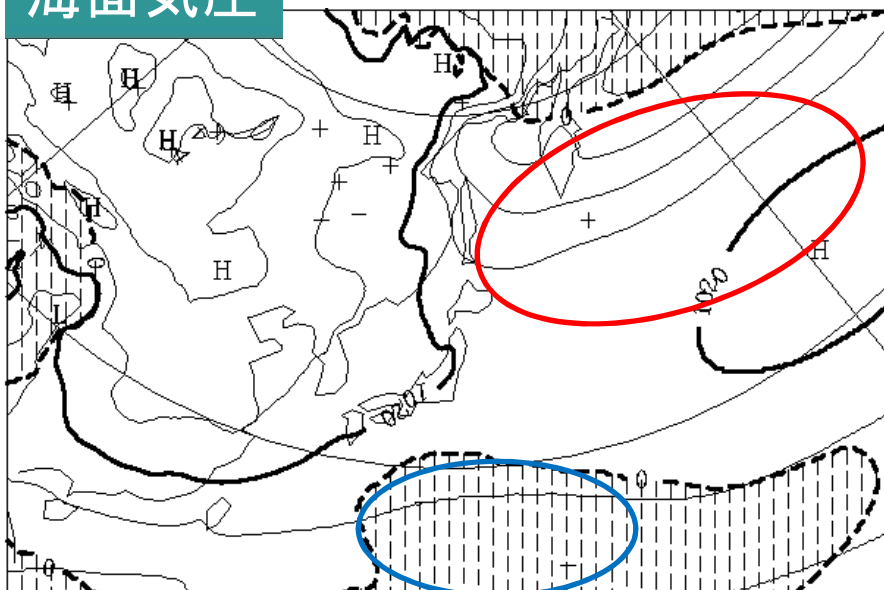


## 850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われるが、日本の北や中国大陸付近には低温偏差域も見られる。

## 海面気圧



日本の東で高気圧偏差が明瞭で、冬型の気圧配置となりにくい。日本の南には低気圧偏差が見られ、太平洋側を中心に湿った空気の影響を受ける時期もある。



## 想定される天候

北・東日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。  
北・東日本太平洋側、西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。  
沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

### <気温>

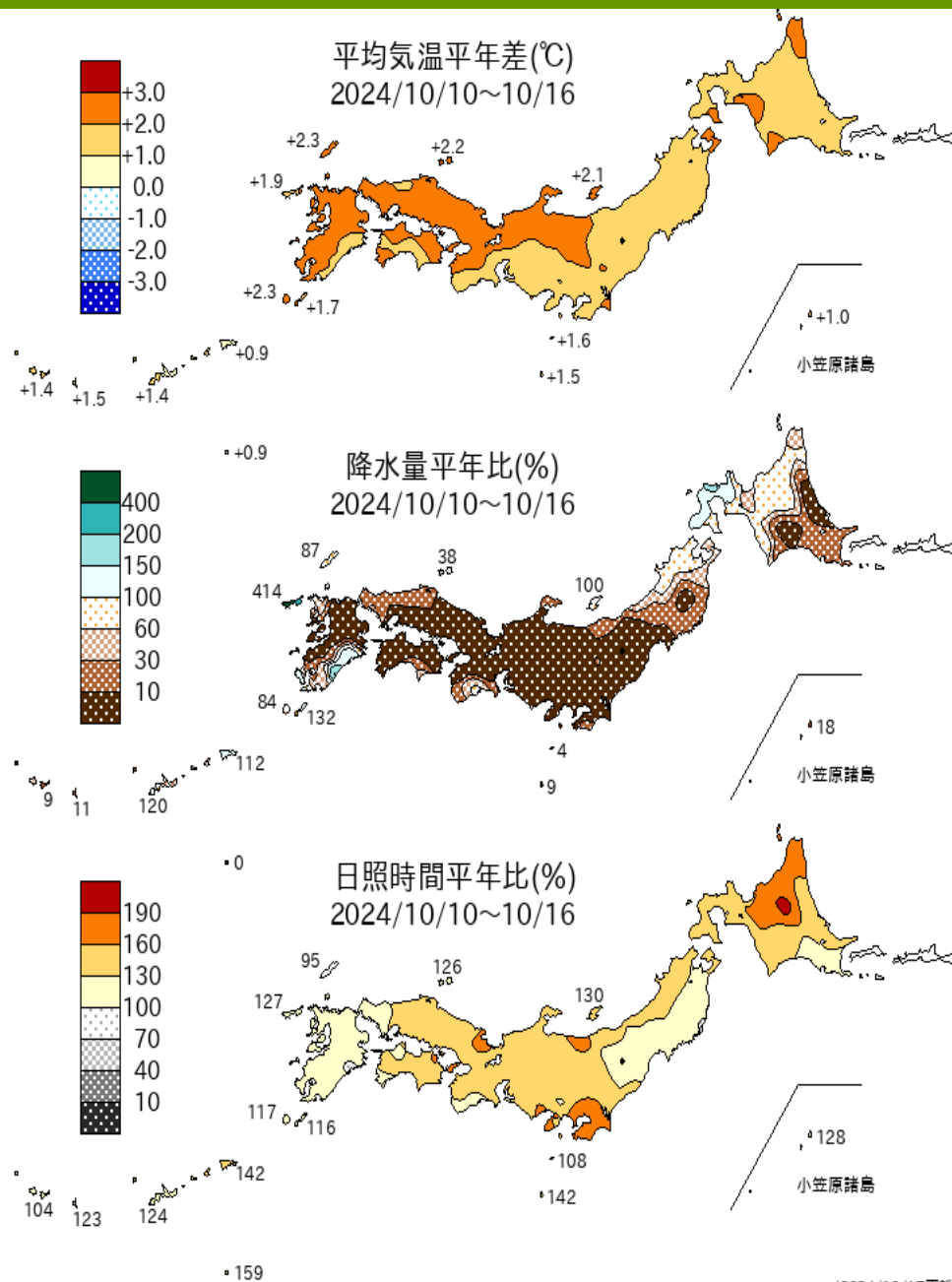
・暖かい空気に覆われやすいため、北日本では高温傾向、東・西日本、沖縄・奄美では高温。

### <天候>

・北・東日本日本海側と沖縄・奄美では、並雨・並照。

・北・東日本太平洋側、西日本では、湿った空気の影響を受ける時期があるため、やや多雨・やや寡照。

# 最近1週間の天候経過



最近1週間(10月10日~10月16日)は、15日、16日は低気圧や前線の影響で雨となったところもありましたが、高気圧に覆われやすかったため、全国的に晴れの日が多くなりました。気温は、全国的に暖かい空気に覆われやすかったため、平年に比べ高い所が多く、真夏日を観測する地点もあるなど、特に西日本では顕著に高くなりました。